

チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第108回「金価格急落」

2月28日から米国・イスラエル合同軍はイランに対して軍事作戦を展開、イランの政治・軍事部門の指導者たちを空爆で殺害し、イランに降伏するよう迫っています。このように地政学リスクが高まっている一方で、「金」価格は3月に入り急落しました。今週は金価格の動向やその示すものについてお伝えします。

～金価格の動向～

「金」については、当ウィークリーレターで2度取り上げてきました。その中でもお伝えしましたが、「金」はそれ自体で価値を持ち、インフレや戦争などの地政学的リスクが高まったときに価格が上昇する傾向があります。直近の金先物価格の推移をご覧ください。（裏面グラフ1参照）

昨年、4月にトランプ大統領が相互関税政策を発表、実施して以降、金価格は大きく上昇していましたが、今年1月に次期FRB新議長の見解発表後は急落しました。その後、2月には米軍がベネズエラを急襲し、マドゥロ大統領を拘束、2月28日から米国・イスラエル合同軍がイランに対して軍事作戦を展開しました。このような地政学リスクの高まりは金価格上昇の要因になるはずですが、金価格は3月も下落基調を強めました。3月26日には1トロイオンス当たり4375.5ドル（期近物）まで下落し、今年1月29日に付けた史上最高値5318.4（同）ドルから-17.7%下げました。ここまで値下がりした要因は、対イランの軍事作戦による中東情勢の緊迫化が原油先物価格を押し上げ、インフレ懸念から長期金利が上昇（米国10年国債金利：2月末3.94%→3月27日4.43%）したためです。金利を産まない「金」は、市場金利が上昇すると売られやすくなることや、商品先物取引という観点からは「金」よりも「原油」の値動きに目を奪われる投資家が多くなったことで、「金」は売られ価格は値下がりしました。

しかし、先週末の金先物価格は前日の年初来安値から2.7%上昇しました。一部の市場関係者は2008年の金融危機後に起こったような株式市場の底値に先んずる動きかとの見方も出ているようです。

～金先物価格が示すもの～

トランプ大統領はイランとの軍事作戦終結に向けた交渉を始めており、「交渉は順調」と話しています。これが事実であるとすれば、金価格の上昇は上記のように株式市場が反転する前触れとの見方になるでしょう。しかし、一方でトランプ政権は対イランへの地上戦を実施するような部隊の派遣を進めており、今回の軍事作戦を軍事力で終結させるプランも考えているようです。地上戦への移行は、軍事作戦の拡大が想定されるため、金価格の上昇は、原油価格上昇のみならず、世界規模の地政学リスクの増大を見越した動きではないかと考えます。

トランプ大統領は、イランの電力インフラへの攻撃を10日間延期しました。延期の期限は米東部時間で4月6日（月）午後8時（日本時間：4月7日（火）午前9時）となっています。この期限前後でトランプ大統領は地上戦を行うのか、軍事作戦終結の交渉を受け入れるのか決断すると思われます。この決断が、世界経済や株式市場の安定をもたらすものになって欲しいと心から願うばかりです。

（3月30日記）

(単位:米ドル/1トロイオンス)

グラフ1

